

文芸

俳句

突風に話題のとまる焚き火輪

池田 逸子

無限なる空に弾けし蔓もどき

伊藤 敬子

孫抱き初宮詣寒紅さす

今関満喜子

思い出のアルバム開く年賀状

魚地 照子

踏むまいぞ日向ぼっこ猫の足

江森 悦子

百円であれもこれもと初詣

川島 通則

日向ぼこ米寿を願ふ傘寿かな

向後 寛

おままごと南天の実のおもてなし

越川せつ子

白菜の蕈の鉢巻き身を守る

小松 藤男

数枚になりし日記や蚯蚓鳴く

佐瀬 輝夫

真更なる手帳朱色で初句会

椎名万里子

温顔で馴れし座につき初句会

鈴木とし子

豆腐屋の喇叭遠のく寒の暮

鈴木 利子

今年こそ今年こそはと初詣

玉虫 栗扇

山紅く力強きや初日の出

土屋美枝子

うこん干す冬日やぬくし父と母

土屋 義昭

麦の芽やみどりしたる田舎道

戸村 静華

年暮るる無理はすると言われつつ

内藤 くに

虎挟み仕掛けて山の眠らんと

藤田 雅夫

短歌

ほつこりと癒されたき日松丘園の

つね子先生に会ひに行きたり

沖繩のあつき空気をまといつつ

届きし泡盛家族と囲む

大きとも形も儘なる大和芋

真空。パツクにヒタリ収まる

迷はずに商品ナンバー一七一

幾年馴染みの日記帳選る

対岸の家並映し栗山川は

冬日の中に静もりあたり

恥ぢらいを何処に忘れ来たるかの

中年女性車内で化粧す

師は卒寿昔の腕白七十五歳

一人ひとりに握手しくるる

花びらを手作りのごと重ね合い

厚物菊は庭に咲きおり

土佐に生れ土佐に育ちし母なるに

今は越後の御墓に眠る

犬吠の宿より望む朝の日は

光の矢射る雲つらぬきて

浅野 榮子



こうほう 博物館 71

むかしの絵はがき

今では携帯電話のメールが、通信の主になってしまったが、たまにはがきで便りを受け取るのも捨てたものではない。ましてやきれいな絵はがきで、短い書き添えがあるとうれしくなる。絵はがきは、日本では近代郵便制度導入と同時に始まり、明治のころは様々な絵が描かれ、ブームになったこともあるという。大正の終わりから昭和になると、絵から写真が多くなり、観光地から軍関係、災害など、その時々々の情報を伝える手段ともなった。

下の写真は、銚子犬吠埼の風景を絵はがきにしたもので、年代は不明だが、おそらく昭和初期のものと思われる。今から八十年以上も前のものになり、犬吠埼の景観も灯台を除いて今と少し違っている。まだ写真

撮影が少なかった時代、このような絵はがきの写真は、当時の姿を知る貴重な資料となる。

今日、絵はがきより自分で描く絵手紙が流行り、多くのポストカードアートが生まれている。

町民ギャラリーでは二月八日から「絵手紙歳時記展」を開催しますので、その小さなアートをぜひご覧ください。

(社会文化課 道澤 明)



▶犬吠埼の風景の絵はがき